

スズメのお母さんへ

和歌山県 智辯学園和歌山小学校 四年

根来^{ねごろ}

颯一^{そういち}

きつとたくさん心配したよね

でも だいじょうぶ

あの子は 元気に飛び立ったよ

折れていた 左あしも

いたそうだった 背中のきずも

ちゃんと なおったよ

庭で バッタやクモをさがして ごはんに

したり

リビングで 飛ぶれんしゅうも がんばっ

たよ

日よりの朝 はやくに お空へ帰したよ

家族みんながびっくりするくらい

つよく羽ばたいて 見えなくなったんだ

スズメのお母さん

もう会えたかな？

たくさんほめてあげてね

ぼくのお母さん

スズメの子が飛んでいくとき

ぼくの手をぎゅつとにぎつてた

ままのかみのけ

だいすきま

岩手県北上市立黒沢尻西小学校 一年

熊谷^{くまがい}

恵夏^{えな}

わたしはねるときままのかみのけをさわる

いつからだろう

ままにきいたらいまよりもっとちいさいとき

からだって

ときどき

ばばのかみのけもさわる

おとうとのかみのけもさわる

でもなにかちがう

なんでだろう

ままのかみのけは

さらさらしていてきもちがいいからぐつすり

ねむれる

だからきょうもままのかみのけをさわりなが

らねるね

一人でいい

岩手県北上市立飯豊小学校 三年

中島^{なかしま}

由翔^{ゆうと}

やっぱりお母さんは一人でいい。
お母さん、ぼく手つだうよ。

お母さんがもう一人いたら

あれもこれもやれるのに！

と、お母さんは言う。

そうすると

二人と遊んで

二人にほめられて

二人にぎゅーしてもらえる。

いい考えだ。

でも、ちよつとまって。

きつと、二人分しかられる。

きようれつだ。

さいきようでさいあくだ。

それはいやだ。

こわい、こわすぎる。

め

愛知県 西尾市立中畑小学校 一年

齋藤

湊

ぼくのおかあさんのせなかには

めがあるとおもう

ようかいじゃないとおもうけど

みんなのおかあさんとは ちがう気がする

だって うしろをむいてたはずなのに

「ねーねえ」

「いまのはよくないんじゃない」

っていわれてドキッとする

おかあさんが うしろをむいてるのをかくに
んして

おとうとにいじわるしても

「みてたよ あやまりなよ」

といわれてギョッとする

やっぱり ぼくのおかあさんは
せなかにめがあるんだ

よこをむいてるときでも

「みえてるよ なにしてるの」
といわれて

「えっ、よこにもめがあるの」

ぼくはおもわずいった

「あるわけないじゃん」

っておかあさんはわらっていたけど
きつとあるんだ

こんど おかあさんがねているときに

ひみつのめをさがしてみよう

でも ほんとうにあったら

どうしようかな

パン屋さんの帰り道

兵庫県姫路市立旭陽小学校 四年

鵜飼^{うがい}

一有^{いちゆう}

土曜日の夕方

お母さんと一緒に近所のパン屋さんへ

自転車のペダルをこぐ

僕はウインナーパン

お母さんはクロワッサンが

いつものお気に入り

でも

「すみません。今日は全部売り切れちゃって。」

店長さんが申し訳なさそうに言う

手ぶらの帰り道

せっかく行ったのに 楽しみにしてたのに

不きげんそうな僕に

「ああ、よかった。」

と、お母さんが言う

「店長さんが一生けん命作ったパンが残らず
売れて本当に良かった。」

と、うれしそうに言う

僕は勢いよく自転車のペダルをこぐ

こんなことを言うお母さんが好き

お母さんの日常

千葉県我孫子市立布佐中学校 一年

高橋^{たかはし}

佑輔^{ゆうすけ}

お母さん、僕だって成長しているよ。
もう中学生。

「もう、起きる時間じゃないの？」

いちいち言われなくても自分で起きれるよ。

「忘れものはない？」

自分で出ていく前に確認してるよ。

「自転車、出しておいたよ。」

それくらい、車傷つけないように出せるわ。

本当にお母さんは過保護すぎる。

僕は中学生。もう言われなくなつてできる。

「おかえり、学校どうだった？」

疲れて帰ってきているからそつとしておいて。

「お風呂入っちゃえば？」

自分で入りたい時に入るわ。

本当にお母さんはいちいちうるさい。

いつまでも子供あつかいして。

ぼくのかお

岩手県北上市立南小学校 一年

菅原^{すがわら}

怜大^{れお}

ぼくはパパににるといわれる

おにいちゃんにそっくりといわれる

ママとはにってるっていわれたことがない

でもぼくはママににるとおもうんだ

なきむしなこと

しんぱいしてどきどきすること

わらったとき

ほっぺがまっかになること

ママのきもちが

ぼくのなかにある

だからぼくはママににってるんだよ

おかあさん

岩手県北上市立飯豊小学校 一年

伊藤

千瑛

ぼくがねつをだすと

しんぱいそうなかお

いつしよにあそぶと

にこにこえがお

ごはんをたべると

おくちもぐもぐ

ぼくがねているときは

どんなかおをしているのかな

そうじ

岩手県北上市立黒沢尻小学校二年

藤本 調ふじもと しらべ

どこのおそうじたいかい
するのかな。

ぼくは、おかあさんと妹と

いえのそうじたいかいをする。

このまえおふろのそうじをした。

いつもやらないところをだれが一ばん

きれいにするか、きょうそう。

ぼくは、おかあさんにかりた

ながいブラシでてんじょうをやる。

よごれがおちるのがたのしくて

かべもゴシゴシした。

みんなでさいごは、水あそびを

したみたいにくくもぬれたけど

きれいになって、たのしかった。

おかあさんもうれしそう。

またみんなでつぎは

元気になるよ、お母さんの手

岩手県北上市立黒沢尻西小学校二年 チヨンヒョウオン

わたしのお母さんの手は

あったかい。

おなかがいたいとき、

さわってくれたら、

すごい、すごい

おなかが気もちよくなって

いたくなくなつたよ。

お母さんの手、まほうみたいな手。

ないているとき、

お母さんがせなかを

トントン、トントンしてくれる。

どんどん、どんどん元気になる手。

なきやんだよ、うれしいよ。

はじめて日本にきたとき、

ひこうきにのって、つかれていたら

たすけてくれた、やさしい手。

お母さんが、わたしといっしょに

じゃんけんとか、こちよこちよとかして

あそんでくれる、たのしい手。

さびしいとき、かなしいとき、

どんなときも、

いつもずっととなりについていてくれる。

元気になるよ、お母さんの手。

みなみぬまえびのおかあさん

岩手県北上市立黒沢尻西小学校 二年

三田^{みた}

快晴^{かいせい}

ぼくはえびをかつている

とても小さい

おかあさんえびはたまごをだいじにかかえ

ているんだよ

おなかのヒレをうごかしてたまごにしんせん

な水をおくっているんだよ

たまごをとともたいせつにまもっているんだ

ね

ぼくのおかあさんに

ママぼくのことたいせつでしよってきいたら

たいせつだよって言うてくれた

あったかいきもちになったよ

妹は、かわいい

岩手県北上市立黒沢尻西小学校二年

佐藤 さと
灯 あかり

わたしの妹は

えがおがかわいい

しゃべれることばがすくないけど

ジェスチャーするのがかわいい

わたしのことを「ちゃーちゃん」

とよぶのがかわいい

おしりとほっぺもかわいい

もちもちしていてかわいい

ダンスがかわいい

うたがかわいい

はしるのがへただけどかわいい

たまにおこるけどかわいい

ないてもかわいい

ぬいぐるみをだっこするのがかわいい

かいてる絵もかわいい

食べているところもねているところも

ぜんぶかわいい

わたしの妹は、ダウンしよう

お母さんのおなか

岩手県北上市立黒沢尻西小学校二年

三田^{みた}

暖真^{はるま}

お母さんのおなかは、大きい

おなかの中に、赤ちゃんがいるから

いつも、おなかが大きいのに

ごはんをつくってくれたり

おせんたくをしてくれて

ありがとう

おなかの中の赤ちゃんが

弟か、妹か、

まだわからないけど

かっこいいお兄ちゃんになれるように

ぼくもおてつだいがんばって

お母さんをたすけるね

ぼくのおかあさん

岩手県北上市立東桜小学校二年

千葉^{ちば}

縁^{えに}恣

ぼくのおかあさんはかんごしさん

よるもおしごとだから、ぼくがねるときおか

あさんがいないときがある

ぼくはちよつとさびしいきもちになる

だから、ぼくは小さいときからいっしょにね

ているうさぎのぬいぐるみをぎゅつとしてね

むる

ぐつすりねておきると、となりにおかあさん

はいない

あれ？ねてるときおかあさんとなりにいた気

がするんだけどなあ

おきてかいだんをおりると、だいどころから

いいにおいがしてくる

ぼくがだいすきなおみそしるのにおいだな

「いただきます。」

おかあさんがつくるおみそしるおいしいな

学校からかえつてくると「おかえり」とおか

あさんの声がきこえる

ぼくはとってもうれしいきもちになる

うちのおかあさん

岩手県北上市立飯豊小学校 二年

菅原^{すがわら}

惇希^{あつき}

うちのおかあさんはチョコレートが
好き

だからぼくもチョコレートが好き

うちのおかあさんはやさしい

だからぼくもやさしい

うちのおかあさんは歌が好き

だからぼくといっしょに歌う

うちのおかあさんはせが高い

だからぼくも大きくなれる

おかあさんとぼくはだいたい同じ

お母さんの手のぬくもり

鳥取県鳥取市立青谷小学校 四年

房安 ふさやす

紬希 つむぎ

お母さんと二人で殿ダムに取材に行った。

すごく大きなダムだ。

ダムの地下に向かう階段を下りようとする、

とても急だった。

なんと四十五度もけいしやがあるそうだ。

見えない底にすいこまれそうで、

足がすくんだ。

「こわいよ。」

すぐに手をつないでくれたお母さん。

お母さんの手は細くてやわらかくて、

心にまで伝わるような温かさがあつた。

地下はとても冷たかったのに、

お母さんの手をつないだからなのか、

わたしの体はとても温かく感じた。

長い階段を下りると、

思わず笑顔が出た。

お母さんがそばにいてくれて、

とても心強かったよ。

お母さん、お仕事おつかれさま

鳥取県 鳥取市立青谷小学校 四年

米廣^{よねひろ}

晴琉^{はる}

ぼくたちの前では、いつもやさしいお母さん。
お仕事おつかれさま、お母さん。

病院で働いているお母さん。

注しやをいっしゅんでうつ名人らしい。

それならこわさもいっしゅんだね。

すごいなお母さん。

中には、大変なかん者さんもあるらしい。

話を聞かない人、

つばをはいてくる人、

手を引つかいてくる人、

ある日、体の大きい人を、

六人がかりでベットにうつしたそうだ。

せぼねが折れそうなくらい、

大変だったらしい。

いろいろ苦労があるね、お母さん。

お母さんとすごした夏休み

岩手県北上市立飯豊小学校 四年

八重樫^{やえがし}

瑳玖^{さく}

いろいろな色があつてきれいだったなあ

「お母さんと思い出いっぱいうれしいな。」

今までの夏休みは

仕事で家にいなかったお母さん

今年の夏休みは

赤ちゃんのおせわで家にいたお母さん

「今年の夏休みはお母さんと遊べるぞ。」

弟とおそろいのじんべえを着て行ったえん日

一緒に食べたポップコーンおいしかったなあ

夜道を歩いて行った花火大会

音が大きくてはくりよくがあつたなあ

暑い中行った夏祭り

しゃ的が一番楽しかったなあ

家の前でやった手持ち花火

長いひも

岩手県北上市立南小学校 五年

鮎田 あゆた

遥空 はるか

「じんくん、充電器とらないでえ。」

ぼくの弟は、長いひもが大好きだ

ぼくが、ゲーム機を充電していると

まるではいはいレースで一位でも

取るようなスピードでやってくる

そして、黒いひもをびょーんと伸ばしたり

あむあむとなめていたりする

「じんくんのおもちゃはこつちだよ。」

と、お気に入りボールを見せたけど、

やっぱり長いひもがいいらしい

なんで、長いひもを見つけると、

あんなににこにこして喜ぶのだろう

そういえば、お母さんが言ってたなあ

まだ弟がお腹にいるとき

大きなお腹をなでながら

「もこもこくんが、へその緒で遊んで、た

くさん動いてる。もこもこしてる。」

って

へその緒は、赤ちゃんとお母さんをつなぐ

大切な長いひも

あのときは、まだ名前がなくて

「もこもこくん、がんばって動いてるね。」

と、お母さんのお腹をさわりながら

よく声をかけたなあ

きつとお腹の中でも、十ヶ月間

今みたいに、長いへその緒を

引っばって遊んでいたから

長いひもが大好きなんだね

お母さんの背比べ

岩手県北上市立東桜小学校 五年

真田 さなだ

高虎 たかとら

「タカ 最近身長伸びたね。」

「ってみんなに言われる」

その時にはいつもお母さんと背比べ

「まだ お母さんの方が大きいなあ

でもあとちょっとで

追いこせそうだね。」

早くお母さんの身長をこしたい

「ぼくが生まれた時は どれ位だった？」

「四十七センチだったよ。」

「ぼくが一さいの時は どれ位だった？」

「七十三、三センチ。」

「じゃあ 五さいの時は？」

「百七、七センチ。」

「じゃあお母さんは？」

「ちよつとずつ

小さくなってるんだよなあ

タカは どんどん大きくなっていいなあ。」

十さいのうちにお母さんを追いこすぞ

誕生日まであと一か月

十一さいの誕生日に

お母さんと背比べするのが楽しみだ

ぼくに追いこされても

悲しまないでね

十一さいの誕生日は

お母さんを追いこす

記念日になりますように

お母さん落ち着いて

岩手県北上市立飯豊小学校 五年

佐藤 さとう

華楓 かえで

お母さんはおつちよちよい

たまごを割って中身を捨ててた

サランラップとリモコン冷蔵庫に入れてた

あつ、ちがうちがう

お母さんのひとり言が聞こえる

少しはなれた所から見てるわたし

こんどはお母さんの言いまちがい

からあげをカラオケ

カギをハサミ

おかえりをただいま

どうしてそうなっちゃうんだろう

お母さんとわたしは笑い合った

歩いてきたと思ったらやることをわすれる

車のカギをわすれてすぐもどってくる

ごはんの入っていないお茶わんが出てくる

毎日いろんなおつちよちよい

きつとつかれてるんだ、お母さん

わたし手伝うから落ち着いて、お母さん

水中花火

岩手県北上市立飯豊小学校 五年

伊藤

大晟

「水中花火、見に行こう」

夏休み初日にお母さんが言った
えっ

花火なのに水の中？

どんな花火が見れるのか

不思議に思っ 家を出た

ドーンと花火が打ち上がる

はく力まん点 大きい花火

シューン パチパチパチ

下の方には小さな花火

曲に合わせて

赤 青 黄色

緑にむらさき

次から次へと色が変わる

きれいだな

おやっ

船の中から水面に

何か投げているぞ

ドーンと水面に 花火が広がった

「きれいだね」

「うん 楽しいね」

水の中から 花火が上がる

びっくりした

お母さんは え顔でうれしそう

ぼくもとなりで ねころんで

花火を見つめた

お母さんありがとう

また見に行こうね

楽しい一日

夏休みの始まりだ

いちいち

大阪府関西創価小学校 五年

西尾^{にしお}

香凜^{かりん}

お母さんはいちいちが多い。

「あれもった？」

「あれした？」

「今日の楽しいことベストは何だった？」

「今日のワーストは何だった？」

いちいちうるさい。

ジュニアオーケストラのドイツ演奏会に出演

することになった。

はじめてお母さんと離れていく海外。

出発の空港で、

「向こうについたら連絡してね。」

「あれはここに入ってあるからね。」

「他の人が何か忘れていたら余分に入れてあ

るから渡してあげてね。」

「ひとりで行動しないでね。」

いつも以上に

いちいちうるさい。

他の団員もいる前ではずかしい。

しかも余分な荷物が多いから重くてしかたがない。

お母さんの方をふり向かずに保安検査場に向かった。

演奏会と次の会場への移動で毎日が忙しい中

お母さんが余分に持たせてくれた物が

人にもわたしにも役に立っていく。

いちいちいわれられていたことが

毎日の海外生活をスムーズにしてい

くお母さんに会いたいな。

到着ロビーでお母さんが見えた。

さみしくなんかなかったよと強がりながら

ドイツでの出来事を話した。

お母さんが笑いながら肩をよせた。

いちいちいちいち安心する。

わたしはお母さんが

いちいちいちいち大好きだ。

私のお母さん

埼玉県川口市立慈林小学校 六年

宇田川

祐希

と言うけれど

友達みたいなお母さん

いつまでも元気でいてね

お母さん

私が算数の問題を解いていると
必死で一緒に解き始める

私がベーゴマで遊んでいると
楽しんで一緒に遊び始める

私がおやつを食べていると
笑顔で一緒に食べ始める

私が落ち込んでいると
心配で一緒に悩み始める

お母さん

年をとったお母さんでごめんね

ありがとう

岩手県北上市立東桜小学校 六年

桑原^{くわばら}
陽^{はるか}

私のお母さんって

あんまりありがとうって言わないな。

ほかの人はありがとうって

ちゃんと言えるのに。

ありがとうって言えば

みんな笑顔になれるから、

たくさん言った方がいいのに。

次の日の学校。

友達がごめんねと謝っていた。

「何も悪いことしてないんだから、

謝る必要ないよ。」

と相手の友達は言っていた。

たしかにその友達は

すぐにごめんねと言ってしまう。

何も悪いことしないで言うごめんねは、

もしかしたら

本当のごめんねとは

言えないのかもしれない。

ごめんねというのは

何回も言えばいいんじゃないかって

心をこめて

一回で言いきる言葉なのかもしれない。

もしかしたら、

ごめんねだけじゃなくて

ありがとうもそうなのかもしれない。

だとしたら、

お母さんがありがとうって

あんまり言わない理由って

これなのかな。

そう思うと、今までの自分が

なんだかはずかしくなってきた。

だから今日は、

うすっぺらいありがとうじゃなくて、

温かくてやさしいありがとうを言うね。

「ありがとう。」

福校長先生

岩手県北上市立東桜小学校 六年

菊池きくち

心乃このの

「明日からがんばってくる。」

日曜日の夕方、

母は海の近くの学校まで

車で出かけていく

「副校長先生」として

父も「副校長先生」として

単身赴任だったから

母か父どっちかがいなくても平気

だと思っていた

父が仕事でいなかった時の

「不安」と同じように

母が仕事でいない時は

少し慣れなかった

母も私と同じ感じだった

ある日、私は母に

「がんばってね。」の思いをこめた

メッセージを書いた

その時、

「副校長」を「福校長」と書いた

母は、

「こう考えれば、仕事も少し楽しくなる。」

とほほ笑んでいた

私も何故かうれしくなった

日曜日の夕方、

母は海の近くの学校まで

また車で出かけていく

「福校長先生」として

お母さんのおにぎり

岩手県北上市立東桜小学校 六年

新田^{にった}

紗羅^{さら}

お母さんの作るおにぎりは、
とってもおいしい。

まんまる、三角、たわら型。

ふんわりしていて、いいにおい。

炊きたてご飯を、キュツ、キュツ。

熱くないのかなあ。

「おいしくなあれ。」

「今日も一日がんばれ。」

願いを込めて作るんだって。

お母さんのおにぎりを食べると、

本当に元気になるから不思議。

何だかまほうみたい。

お兄ちゃんの友達三人が、
家に来た。

夜ご飯は、みんなでバーベキュー。

お母さんはおにぎりをたくさんにぎった。

「マジ、うまいっす。」

友達みんながたいらげた。

だって、まほうだもん。

私は、うれしくなった。

お母さんのおにぎりは、

みんなを元気にするまほう。

いつか私も、

まほうのおにぎりを作れるようにな
りたいなあ。

どうしたらいいかな

岩手県北上市立東桜小学校 六年

平^{たいら}健汰^{けんた}

いつも話したいことがいっぱいあります。
でも、

お母さんはいそがしそう。

「今日、みんなでバスケットだよ。」

「科学クラブでアイス作ったよ。」

「工作見せたら、みんな驚いていたよ。」

たくさん、たくさん、話したい。

どうしたらいいかな。

休みの日。

「スープスパゲッティ食べたいな。」

「おり紙いっしょにしよう。」

たくさん話ができてうれしい。

休みの日だけでなく、

いっぱい話したいな。

どうしたらいいかな。

お手伝い、いいかも。

お母さんが皿を洗って、

僕が皿をふく。

兄ちゃんが片付ける。

手伝いながらいっぱい話して、

その後もゆつくり話できた。

ぼくもうれしいな。

この作戦、使えそう。

お母さん、いっぱい話すからね。

弟から見たお母さん

岩手県北上市立飯豊小学校 六年

川又^{かわまた}

智隼^{ちはや}

弟から見たお母さん

顔がかわいい

料理がとくい

そうじをがんばってる

いろんなところにつれてってくれる

いっつもあそんでくれる

いろんな物を買ってくれる

すてきなお母さん

これだけです

ぼくから見たお母さんと弟から見たお母さん

は、ぜんぜんちがいます

お母さん

岩手県北上市立飯豊小学校 六年

藤原^{ふじわら}
蓮^{れん}

あなたの声は

雨の日の傘みたい

そっと私を守ってくれる

ありがとう

いくつものありがとう

鹿児島県 鹿児島市立原良小学校 六年

増田^{ますだ}

智優^{ちひろ}

六月

妹がうまれた

私は、ふたりのお姉ちゃんになった

ひとりめの妹の時

からだがきつそうなお母さんを

となりで見てた

あの時

できなかったことがたくさんある

くやしかったことが、たくさんある

でも大きくなった今

私はたくさん

役に立てる

お母さんのために

妹のために

動けるからだが

とっても嬉しい

うんちをふいて

おむつを替えて

お風呂にも入れてあげられる

お世話するほど

妹がかわいい

妹の笑顔が

嬉しい、

まぶしい。

お母さん

お母さんもきつと、こんな気持ちで

私を育ててくれたんだね

お母さん

ありがとう

それから

かわいい妹たちも

誰かのために動けるからだも

私にくれて

ありがとう

声と温もりに包まれて

東京都東京学芸大学附属小金井中学校 二年

栞原^{くわばら}

由愛^{ゆあ}

私のお母さん

私のお母さんは、声が大きい

朝、私を起こすときの声、きらい

私のバスケの練習試合のときの応援する声、

きらい

私を注意するときに甲高くなる声、きらい

うるさくて、恥ずかしい、きらい

私のお母さんは、太っている

朝、起きない私に乗っかってくる、きらい

バスケの練習試合のとき、だれよりも大きい

拍手で二の腕が揺れている、きらい

仁王立ちの威圧感、きらい

あつくるしくて、恥ずかしい、きらい

お母さんと喧嘩した

朝起きられなかった

声のしない観客席を何度も見返した

お母さんのあつくるしくて、うるさい声を聞

くために

大声でひさしぶりに

「ただいま」っていつてやろう

鬼のお母さん

岩手県北上市立和賀西中学校二年

小原^{おばら}

笑^{にこ}心

その一言が　じわつと力になる

ほんとは知ってるんだ

鬼の仮面の下には　優しい笑顔があるって

朝七時「早く起きな!!」で一日開始
テレビは消され、スマホも時間制限
まるでルールだらけの鬼の家

忘れ物したら　大目玉

部屋がぐちゃぐちゃなら　雷ドッカーン!

「だらしない!!」の呪文も慣れてきた

だけど部活の試合には　一番の応援団

誰よりも大きな声で

「気合い入れていけー!!」って叫んでくれる

試合前には　にっこり笑って

「にこならできる!!」

だから今日も　ちよつとムカつきながらも
「ありがとう」って　思ってる

大好きなお母さんへ

千葉県我孫子市立布佐中学校 三年

増田^{ますだ}

実紅^{みく}

ガサツで、めんどくさがりのお母さん。

でも、私たちの好きなものは

いつもちゃんと覚えてくれていた。

推しの話にも、嫌な顔ひとつせず

一緒に楽しんでくれたことが嬉しかった。

ふとした出来心でイタズラしたときは、

鬼になって、二時間も説教された。

そのとき、私は心から反省した。

勉強には厳しくて、たくさん喧嘩もした。

癌になっても、辛い顔は見せなかった。

本当はしんどかったはずなのに、

最後まで元気で私たちに尽くしてくれた。

それなのに、わがままばかり言っていた。

手伝いもせず、スマホばかり触っていた。

それが胸に深く残る後悔になっている。

あの日、勝手な都合で拗ねて寝ていた。

空へ旅立つ瞬間に、立ち会えなかった。

最後は、一緒にいたかったのに。

悔しかった。

だけどみんなが泣くなか、

私は涙を流せなかった。

葬式でも悲しいと思う自分はいなかった。

でも、それを悪いことだとは思わない。

だって、お母さんが

『ありのままのあなたが一番輝いてるよ』
って教えてくれたから。

お母さん。

私は今もあなたに教わった通り、
『ありのままの私』で生きてるよ。

母さん

東京都東京文理学院高等部一年

木村^{きむら}
守^{まもる}

母さんの心臓は、

ちよっぴり、みんなとリズムが違う

トクン、トクン、トントン

トーン、トーン、トクン

どんなリズムで、

どんなスピードで、

母さんの心臓は、生きているのか

薬を飲むほどではない、不整脈

母さんの心臓は、むずかしい

独特の雰囲気で、生きている。

個性の強い息子を育て、

ふわってしている日もあれば、

鬼のような日もあるし

母さんが、母さんだから

今の僕があるのかな

難病を克服できたのも、

勉強ができなくても、夢がもてるのは

母さんが、母さんだからだ。

僕の夢は、プロボウラー

反対されると思ったら

「いいじゃん、やりな」と受け入れた

あがりまくりのテンションで、

レッスン、毎回ついてくる。

息子の未来を信じてくれる。

母さん、

元気な応援ありがとう

バシン、バシンとストライク

出してみせるよ。

ね、母さん

まま

広島県 U. S

そして今、私の中にあるのは、「ままみた
いな強い、すごい、ままになる」って夢なん
だよ、まま。

ままってすごい。

ままって強い。

初めて自分のお腹の中にある、ちっちゃい
命を見た時、そう思った。

こんなにちっちゃい命をままは大事に大事
に守って、産んだんだ。

こんなに弱い鼓動をこんなにおつきくなる
まで育ててくれたんだ。

そして、当たり前のようにままとして、そ
ばにいてくれたんだ。

ままってすごい。

ままって強い。

ままにはこれから先もずっとずっと、勝
てんなあ。勝てたらだめな人なんだなあ。

そう思った。